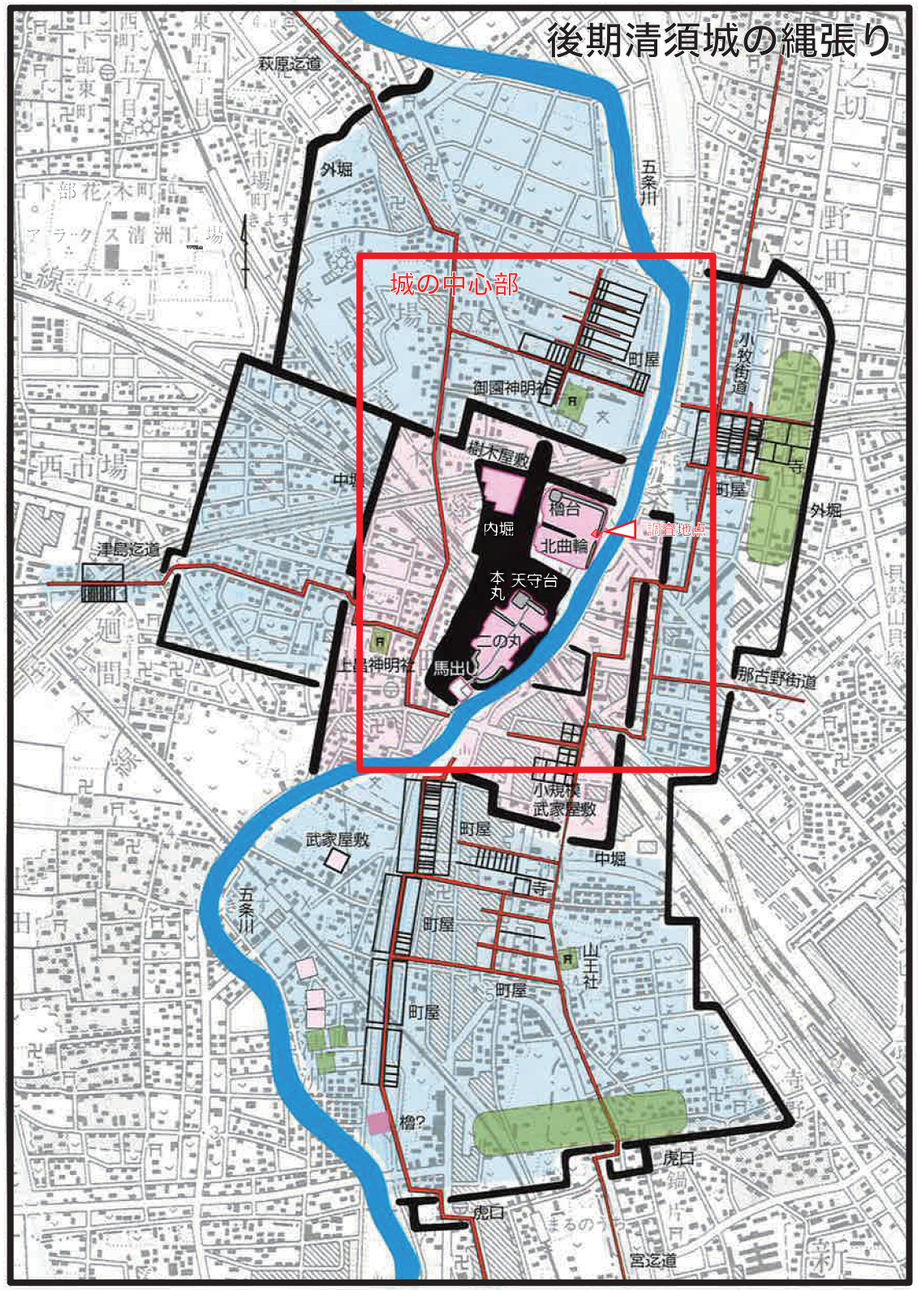


清洲城下町遺跡 2019 年度の調査成果（その 1）

（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団　埋蔵文化財センター
国際文化財（株）

令和２年２月３日から清洲橋の掛け替えに伴う事前調査として、清洲城下町遺跡の発掘調査をおこなっています。

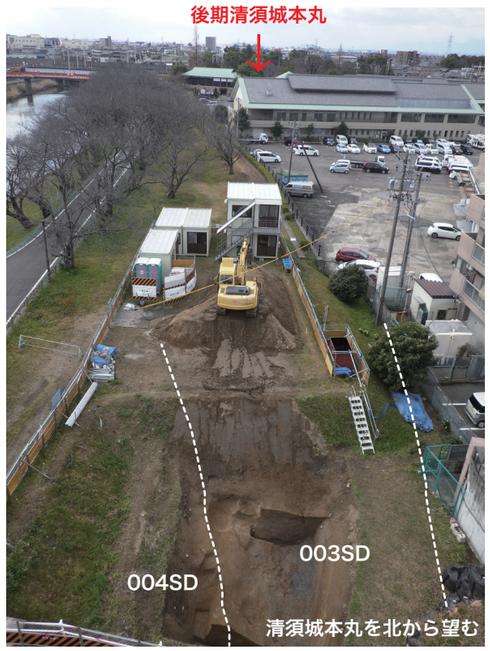
今年度の調査区は清洲橋の北西側にある窪地を 19A 区、清洲橋北詰の橋梁下を 19B 区として調査を実施しております。現在は 19A 区の調査が終わり、3 月 2 日より 19B 区の調査に入っています。

今回の調査地点である 19A 区は、名古屋市の蓬左文庫（ほうさぶんこ）が所蔵する『清須村古城絵図（きよすむらこじょうえず）』によると、天正 14（1586）年に織田信雄（のぶかつ）（織田信長の次男）によって大改修された、後期清須城の本丸の北側にある 2 番目の東端にあたっています。この『清須古城絵図』に描かれたこの曲輪は、北側と五条川に面する東側には土塁を築き、北西隅には櫓台があって、天守閣があった本丸（現在の清洲古城公園）に次ぐ重要な曲輪であったと考えられています。

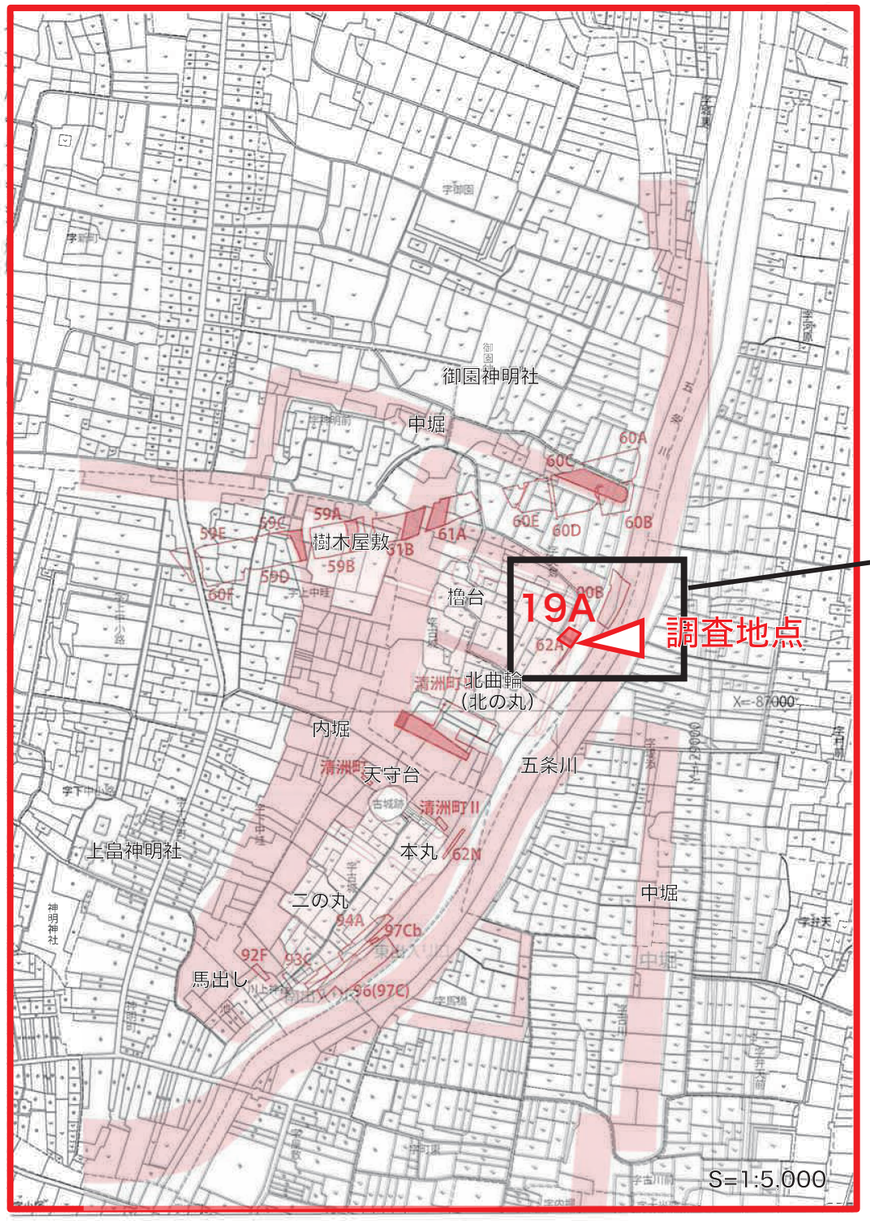
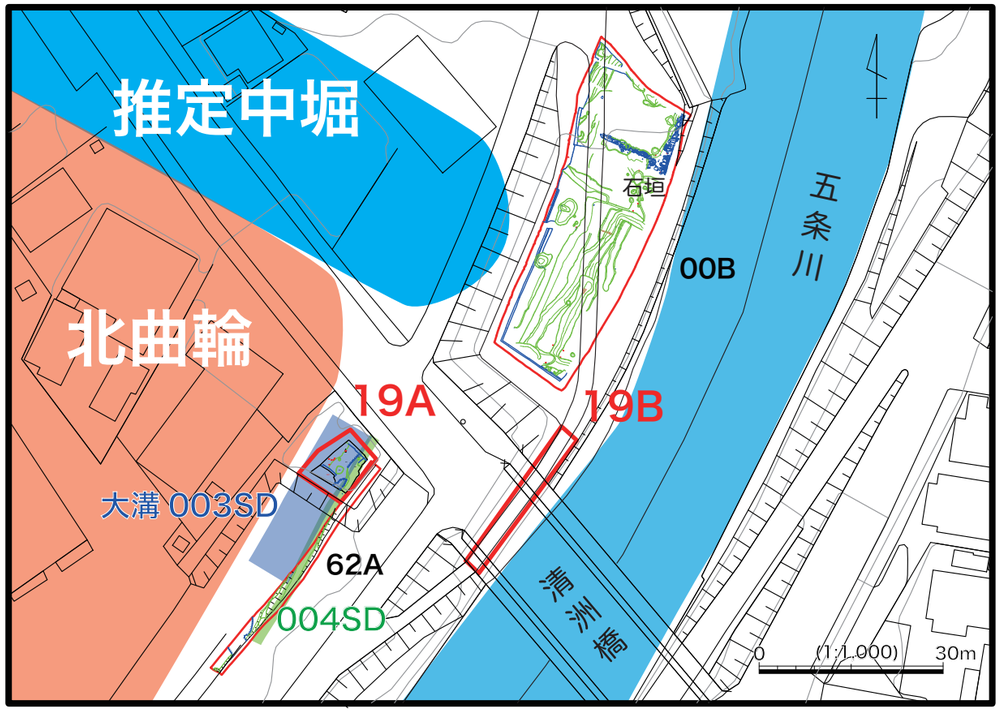
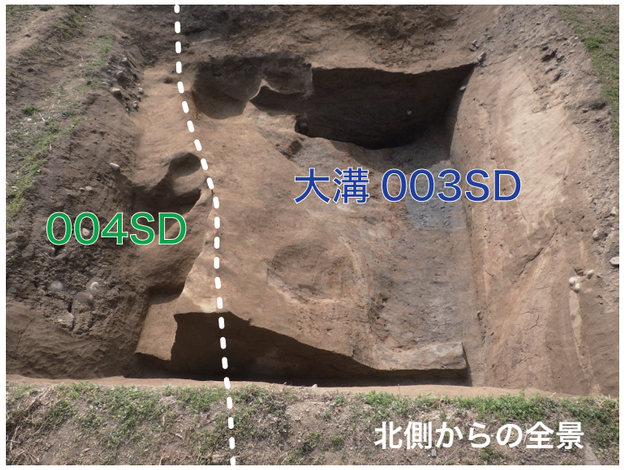
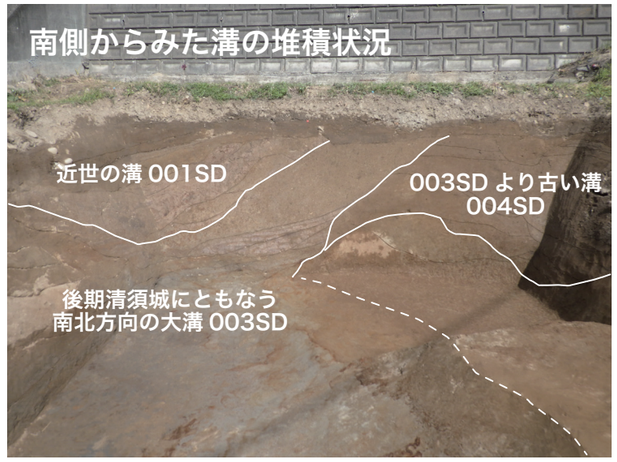
19A 区の調査では、南北方向に伸びる 2 条の溝を確認しました。このうち西側でみつかった溝 003SD は、幅が約 10m、深さが約 3 m もある大溝で、出土した土器や陶磁器から後期清須城の時期に使われていたことがわかりました。

なにぶん限られた面積の調査なので断定的なことは言えませんが、『清須村古城絵図』には描かれていないこの曲輪の東側を区画する堀か、曲輪のなかにあった池状の施設ではないかと考えられます。

これからの調査にご期待ください。



発掘調査でみつかった遺構と本丸周辺の復元図



今回の調査区と周辺の調査成果